九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

病児保育に関するアンケート調査結果の検討

吉中，里香

長家，智子

https://doi.org/10.15017/298

出版情報：九州大学医療技術短期大学部紀要. 28, pp.75-79, 2001-02. Kyushu University School of Health Sciences Fukuoka, Japan
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学医療技術短期大学部紀要，2001，第28号，75－79
Memoirs Kyushu U. Sch. Health Sci., 2001, vol. 28, 75－79

病児保育に関するアンケート調査結果の検討

吉中里香　長家智子

Analysis of the Result of the Questionnaire concerning the Nursing of Sick Children in the Two Nursery Schools

Rika Yosinaka, Tomoko Nagaie

Abstract

We conducted a questionnaire survey to reveal what were problems of parents of nursery school children and what they needed when their children were sick These parents wanted the community to comprehend the present difficulty in combining parenting and working, to increase the number of day care room for the sick children, and to establish the supporting system making use of such day care rooms easily.

Key Words: day care, sick children, child care Support, and childcare

I　はじめに

近年，夫婦の約半数が共働きである。女性の自立，不況ということなどから，今後専業主婦世帯は減少していくものと予想される[1]。さらに，離婚による母子世帯の増加[1]も関連し，多様化する保育のニーズが満たされなければ，仕事と育児の両立は難しい。このように，核家族化や女性の就業の増加等に伴う保育需要は増大しているが，児が病気の時に親が仕事を休めるような環境や体制は十分とはいえない。

1994（平成6）年12月策定された「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について（エンゼルプラン）」の中で，多様な保育サービスの充実を目的とし，低年齢児保育・延長保育などと共に乳幼児健康支援一時預かり事業の充実を図ろうという考えが示され，2004年度の目標を500か所としている[2]。その中に含まれる病児保育施設とは，保育所に預けている子どもが病気になった場合，保育所に通えるように回復するまで昼間，保育・看護をするために児童を預かる施設をいう。

現在，保護者が必要と感じている病児保育施設の絶対数は少なく，利用者の要求に十分応えているとはいえない状況にある。このような実態の中，病児保育のあり方についての研究報告は少なく，一般的にもよく知られていないのが現状である。

そこで今回，保護者の抱える問題やニーズおよび病児保育に対する保護者の考えを明らかにし，今後の病児保育のあり方を考える一手段とするために調査を行ったので報告する。

II　対象・方法

1．調査対象

福岡市東区の私立S保育園及びM保育に子どもを預けている保護者196名。

2．調査期間

2000年8月3日～26日。

3．調査方法

宿題調査法。回収は回収箱に自由意志で入れてもらうようにした。

4．調査内容

全16項目とし（表1参照），選択方式とした。病児保育施設についての質問（問13～16）は，病児

保育施設を利用したことのある人にのみ回答してもらい，各項目は複数回答とした。

表１　子どもが病気の時の保護者の対処法
（回答者115名）

	対　処　法	人数	%
1	自分が休んだ。	54	47
2	～が面倒をみた。	42	36.5
	・祖父母	33	28.7
	・配偶者	6	5.2
3	少しの熱や病気でも保育園に行かせた。	8	7
4	病児保育施設を利用した。	3	2.6
5	職場に連れていった。	2	1.7
6	ベビーシッターに自宅へ来てもらった。	1	0.9
7	その他	2	1.7

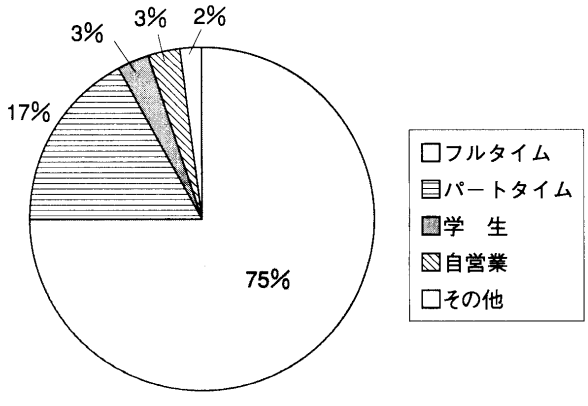
III　結　　果

1．回収した調査票は128件で，回収率69.3%であった。

2．属性に関する項目

回答者は，女性117名(91.4%)，男性11名(8.6%)であり，平均年令は33.6歳であった。また，各家庭の子どもの数は平均1.6人であった。就労状態は，フルタイム100名（75.2%），パートタイム23名（17.3%）などで（図１），仕事の形態としては交替制がある人26名（22.8%），ない人88名(77.2%)，残業がある人は76名(65.0%)，ない人41名（35.0%）であり，有給休暇がある人92名(75.4%)，ない人30名（24.6%）であった。

図１　保護者の就労状態（回答者133名）



3．子どもの病気時に対する質問

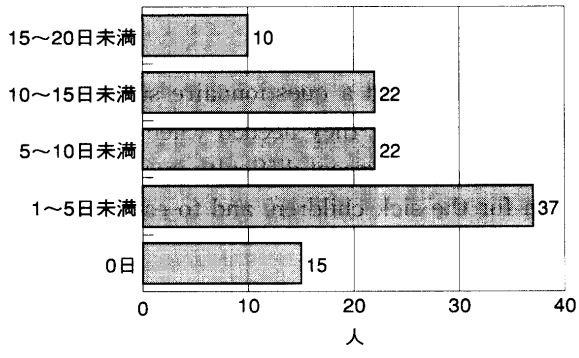
１）仕事に関して

子どもが病気の時の対処法は，「自分が休んだ」が最も多く54名（47.0%）あり（表１），子どもの病気のために平成11年の１年間に仕事を休んだ日数は，平均５.8日で１～５日未満のものが37名(34.9%）と最も多かった。（図２）

表２　子どもの病気を理由に仕事を休みたいと希望した時の職場の対応　（回答者110名）

	職場の対応	人数	%
1	快く許可してくれた。	61	55.5
2	仕方なく許可してくれた。	29	26.4
3	休めなかった。	9	8.2
4	その他	11	10
	・無理なので希望できない。	4	3.6
	・休みにくい。	2	1.8
	・希望できないのでうそをつく。	1	0.9

図２　回答者が子どもの病気で休んだ日数



子どもの病気を理由に仕事を休みたいと希望した時の職場の対応としては，「快く許可してくれた」61名（55.5%），「仕方なく許可してくれた」，「休めなかった」，「休むのが無理なので希望できなかった」，「休みにくい」回答も46名（41.8%）と多かった。（表２）子どもの病気と仕事の兼ね合いで仕事を辞めようと思ったことがあるものは50名(40.0%)，ないものは74名（59.2%）であった。

子どもの病気で仕事を休むことによる仕事への不都合では，「上司や同僚から苦情をいわれた」25名（37.9%），「給与に影響した」19名（28.8%），「仕事ができず立場が悪くなった」17名（25.8%）などであった。（表３）

表３　子どもの病気で仕事を休むことにより生じた仕事の不都合　（回答者66名　複数回答）

	不　都　合	人数	%
1	上司や同僚から苦情をいわれた。	25	37.9
2	給与に影響した。	19	28.8
3	仕事ができず，立場が悪くなった。	17	25.8
4	責任ある立場からはずされた。	5	7.6
5	その他	17	25.8

2）病児保育に関して

病児保育施設を利用したことがないものが113名（89.7%）を占め，利用したことがあるものは13名（10.3%）でしかなく，平成11年の1年間での平均使用回数は4.6回であった。

病児保育制度をどのように考えるかの質問に対しては，85名（66.9%）が「病気の時位親が看護すべきだが実際には必要な制度だ」と答え，「これからより充実すべき制度だ」78名（61.4%），「子育てと職業の両立に必要な制度だ」76名（59.8%）が上位を占めた。しかし一方で，「病児保育制度自体を知らない」，「言葉は知っているが内容はよくわからない」と答えたものも28名（22.0%）あった。（表4）

表4　病児保育制度に対する考え
（回答者127名　複数回答）

	考　　え	人　数
1	病気の時ぐらい親が看護すべきだが，現実には必要な制度だ。	85
2	これからより充実すべき制度だ。	78
3	子育てと職業の両立に必要な制度だ。	76
4	病児保育という言葉は知っているが，内容はよくわからない。	18
5	病児保育制度自体を知らない。	10
6	病気の時ぐらい親が看護すべきだから，この制度には問題がある。	0
7	なくてもよい制度だ。	0
8	現在の状態でいい。	0
9	その他	18
	・時間枠の拡大	4
	・子育てをしながら働けるよう，職場社会の改善を希望。	3

3）病児保育施設の利用について（回答者13名，複数回答）

利用の理由は，「休みがとれなかった」10名（76.9%），「預かってくれる人を探すのが大変だ」8名（61.5%），「できれば仕事を休みたくない」8名（61.5%）などであった。

病児保育施設を利用しての感想は，「子どものことが心配であった」9名（69.2%），「医師や看護婦にみてもらえるので安心だった」8名（61.5%）であった。今後施設に望むこととしては，「施設の増設」11名（84.6%），「時間枠の拡大」11名（84.6%）を選択したものが多かった。

病児保育施設の望ましい形態としては，「医療機関に併設」11名（84.6%），「保育所に併設」5名（38.5%）が上位であった。

Ⅳ 考　　察

子どもが病気になった時の対応で，一番多かったのが「自分が休む」で，全体の50%を占めた。これは，先行研究で明らかにされている「保護者が一緒にいて看護するのが最善」という考え方もあり[3]，子供にとってはよいことであるといえる。しかし，休みを希望した時の職場の対応は約40%が「仕方なく許可してくれた」「休めなかった」など協力的とはいえない状況にある。また仕事を休むことにより30%前後の人が苦情を言われたり立場が悪くなっており約40%の人は仕事を辞めようとまで考えていることからも，子育てと就労との葛藤で悩んでいる人も多いということがいえる。保護者は，社会全体に子育てと就労の両立に対する理解と協力を望んでいる。

子どもの病気時の対応で，二番目に多かったのが「祖父母の協力を得ている」である。しかし，祖父母と同居している家庭は少なく[4]，祖父母の協力を得られない家庭が多い。そのため身内での対応には限界があり，社会制度としての病児保育施設の充実が重要である。少子高齢化が進行する中で，女性の社会進出はさらにすすんでいくと考えられる。「保育園児を持つ家庭における子育ての役割分担に関するアンケート」でも，「子どもが病気の時仕事を休む」「子どもを病院へ連れて行く」の項目は，母親の分担が約80%と大きく，男性の子育てへの参加度は進んできたとはいえ，まだまだ子育ての負担は大きく女性にかかっている。女性のキャリアアップのためにも，快くサポートできる職場や家庭の環境を社会全体で作り，安心して子育てと仕事の両立ができるような体制を整えることが必要である。

今回の調査結果では，病児保育施設の利用者は非常に少なかった。この理由としては，1）病児保育施設という社会サービスをほとんど，あるいは全く知らなかった人が全体の20%を占めている，2）病児保育施設で実際どのようなことがおこな

われているかわからないために利用することに不安や心配が多い，3）病児保育施設を利用したいが施設数や時間帯・費用など保護者の実情にあっていない，などが考えられる。

1994年から子育て支援のための施策のひとつとして病時保育施設が推進されていることを考えれば，今回の結果は，施設の広報活動が上手くいってないとも考えられる。

また，施設を利用したことの有無に関わらず，病児保育制度は「必要な制度だ」「これからより充実すべき制度だ」と，肯定的に捉えていた。しかし，病児保育に対する考えでも「現状のままでいい」と答えたものは皆無であり，病児保育施設は保護者のニーズをとらえ，施設数や時間帯・費用などの面で保護者のニーズにあったものとなるよう，検討する必要があるといえる。

実際に病児保育施設を利用した人の約85％が，医療機関に併設された施設を望んでいるという結果からも，保護者のニーズにあわせた，安心して預けられる病児保育施設の形態が望まれている。

今回，保護者の抱える問題点として，1）子育てと就労との間で悩んでいる人が多い2）病児保育施設を利用しにくい，があげられた。これらに対する保護者のニーズとして，1）社会全体による子育てと就労の両立に対する理解2）病児保育施設の増設と利用しやすい施設形態をあげている。施策により，病児保育施設は今後増加していくと考えられるが，利用しやすいよう保護者の意見を取り入れた保育内容が検討されなければならない。

Ⅴ　おわりに

今回の調査で，保護者の抱える病児保育に関する問題点と，ニーズについて明らかにした。しかし今回，2保育園においてしか調査しておらず，病児保育の実態を明らかにしたとはいいきれない。また，病児保育施設を利用したことがない人の意見を聴取できていない。それらは，今後の検討をさらに要する点である。

Ⅵ　謝　　辞

今回，調査にあったって御協力いただいたＳ保育園とＭ保育園の先生方や保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

Ⅶ　参考・引用文献

1）厚生省：厚生白書．平成10年度版．ぎょうせい，1998
2）厚生省：厚生白書．平成11年度版．ぎょうせい，1999．
3）加藤忠明（日本総合愛育研）：育児・新しい視点　育児をめぐる最近の話題　病児保育のニーズと対応．小児科臨床，48増刊号，1630．1995
4）小國龍也，吉川賢二，山城国暉，他：病児デイケアに対する社会的合意について．小児保健研究，54，517—521．1995．

アンケート用紙

★当てはまる項目の番号を○で囲むか，（　）内に記入してください。

1．あなたの性別　①男　②女

2．年　　齢　満（　　）才

3．お仕事についておききします。
①お仕事の形態は　(a)フルタイム　(b)パートタイム
②交替制が　(a)ある　(b)ない
③残業が　(a)ある　(b)ない
④学生
⑤その他（　　）

4．有給休暇はありますか。→　①はい　②いいえ

5．お子さまの病気の為に仕事を昨年はどれ位休みましたか。　→約（　）日

6．お子さまの年齢…第1子（　）才　第4子（　）才
第2子（　）才　第5子（　）才
第3子（　）才

7．お子さまが病気の時どのように対処していますか。最も多い対処法を1つ選んでください。
①自分が休む。
②（　　）が面倒を見る。
③少しの熱や病気でも保育園に行かせる。
④職場に連れて行く。
⑤ベビーシッターに自宅へ来てもらう。
⑥病児保育施設を利用する。
⑦その他（　　）

8．あなたがお子さまの病気を理由に仕事を休みたいと希望した時，職場の対応はどうでしたか。
①快く許可してくれた。
②仕方なく許可してくれた。
③休めなかった。
④その他（　　）

9．お子さまの病気と仕事の兼ね合いで，仕事を辞めようと思ったことはありますか。
①ある　②ない

10．お子さまの病気で仕事を休むことにより，あなた自身の仕事になんらかの不都合はありましたか。(複数回答可)
①給与に影響した。
②仕事ができず，立場が悪くなった。
③上司や同僚から苦情を言われた。
④責任ある立場からはずされた。
⑤その他（　　）

11．病児保育施設を利用したことがありますか。
→①ある→（　）回　②ない

12．病児保育制度をどのようにお考えですか。(複数回答可)
①病気の時ぐらい親が看護すべきだから，この制度には問題がある。
②病気の時ぐらい親が看護すべきだが，現実には必要な制度だ。
③子育てと職業の両立に必要な制度だ。
④これからよりより充実すべき制度だ。
⑤現在の状態でよい。
⑥なくてもよい制度だ。
⑦病児保育制度自体を知らない。
⑧病児保育制度という言葉は知っているが，内容はよくわからない。
⑨その他（　　）

《以下は病児保育施設を利用したことのある方だけお答えください。》

13．病児保育施設を利用した理由を選んでください。(複数回答可)
①休みがとれなかった。
②預かってくれる人を探すのが大変だ。
③病児保育施設であれば安心である。
④できれば仕事を休みたくない。
⑤利用しやすかった。
⑥その他（　　）

14．病児保育施設を利用しての感想は（複数回答可）
①医師や看護婦に看てもらえるので安心であった。
②病気の時まで保育施設に預けるのは抵抗感があった。
③子供のことが心配であった。
④別に何も思わなかった。
⑤その他（　　）

15．今後病児保育施設に望むことを選んでください。(複数回答可)
①施設の増設
②普段通っている保育所での対応
③近郊，便利な所への設置
④制度の充実
⑤情報提供
⑥時間枠の拡大(フルタイムで働けるようにして欲しい)
⑦費用を安くして欲しい。
⑧他の子供からの感染対策
⑨適切な保母の人数
⑩特に望むことはない。

16．病児保育施設の形態として望ましいと思うものを選んでください。
①医療機関（病院など）に併設
②保育所に併設
③単独の病児保育室
④資格者による在宅病児保育

御協力ありがとうございました。